

「きょうの1題」の学習のしかたについて

010 / 2021.6.11(金)

単元で学習すべき内容を俯瞰できる！

「きょうの1題」の「学習計画表」(★学習記録★)を見ると、その単元では、どのような内容を、どのような順で学ぶのかを知ることができます。

つまり、この単元では、どういう内容を学びとらなければならないのかという学習の目標(到達点)を知ることができます。

基本問題を体系的＝系統的に学習できる

「きょうの1題」では、1つの単元の基本問題を体系的＝系統的に学習することができます。

ある単元を体系的＝系統的に学習するメリットは次の2点です。

メリット1

テストで初見の問題の解き方を推測できる

例えば、確率には、反復試行の確率とか条件付き確率などのいくつかの問題の型があります。これを知らなければ、テストで問題を見て、確率の問題だとはわかってもどのような方法で解いていいかわかりません。反復試行の確率とか条件付き確率には、それぞれ独自の解法があり、それを使わないと解けないからです。

逆に、ある単元にはどのような問題があるかを知っていれば、初見の問題であっても、データベースの中から適用できる解法を選び出して解くことができます。

メリット2

模試や共通テストなどに強い学力を身につけることができる

模試や共通テストなどでは、単独の解き方は出題されません。解き方を組み合わせて解くタイプの問題が出題されます。だから、ただ、単元にどのような問題があるというだけではなく、それらはどのように関係しているかを知っていなければなりません。これが系統性という意味です。

たとえば、A、B、C、D、Eという問題があるとしましょう。

問題BはAを使って解かなければならない、問題DはAとCを使って解かなければならないという問題であるとします。

単元を系統的に学習していれば、問題Bを見てAの考え方を使えば解ける、また、問題Dを見てAとCの考え方を使えば解ける、と瞬時に見抜くことができます。

このような学力こそが、校外模試や共通テストで要求されている学力なのです。

「きょうの1題」の限界と課題

「きょうの1題」はこのように、単元を体系的＝系統的に学習できるシステム教材です。ただし、扱っている問題は基本問題であることに注意してください。これらの基本的な問題の解き方を使って、さらに応用問題を解く技術を覚えて初めてテストで通用する学力になるのだというのを忘れないようにしてください。

「学習計画書」の解法の上に紹介されている演習問題を学習することで基本的な解法を利用する解法の技術を身につけることができます。これらは数専ゼミの東原教室で学習できますが、市販問題集を使っても学習できます。（ただし、その問題集を2周か3周していないと無理かもしれませんが、初めて解く時はその解き方の内容を知らないからです。能力の問題ではなく、経験の問題です。）

「きょうの1題」の学習のしかた

0 「学習計画書」を自分で作る。（「学習計画書」のサンプルを参照する）

作る意味：この単元では、どんな内容を習得しなければならないかを書きながら確認する。

1 画面の問題だけを表示して解いてみる。

必ず、紙に答案を書くこと。

→解ければOK、「計画書」に○をつける。

2 解けなかったとき

「計画書」に×をつける。

【考え方】や答案を学習する。

紙に答案を書きながら、サンプルを見ないでも正解を導けるようになるまでくり返し練習する。

3 覚えているかどうかをチェックする。

チェック日を決めておき、1週間分くらいに学習した問題をもう一度解いてみる。

解けたときは、「計画書」の前の×に後ろに○を付ける。

間違えたら、「計画書」の前の×に後ろに×を付け、上の2からもう一度学習をくり返す。

「計画書」は、自分の学力の到達点を「見える化」するツールです。このツールを見て、弱点を徹底的にたたくことによって、学力は確実に上がっていきます。

数学が体系的 = 系統的に学べる数専ゼミの数学教室です。

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX. (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp

数専ゼミで学習する教材については、こちらから実物サンプルをご覧になれます。→

[教材](#)